



第4期 千葉県教育振興基本計画

人生をしなやかに切り拓き、千葉の未来を創る「人」の育成
～ 一人一人が可能性を最大限に伸ばし、自分らしく活躍するために ～

基本目標 1

子供たちの自信を育む教育の土台づくり

- 施策1 優れた教員の確保と教育の質の向上
- 施策2 安全・安心で魅力ある学校づくり
- 施策3 共生社会の形成に向けた特別支援教育の推進
- 施策4 多様なニーズに対応した教育の推進

基本目標 2

未来を切り拓く「人」の育成

- 施策5 人生を主体的に切り拓くための学びの確立
- 施策6 郷土と国を愛する心とグローバル化への対応能力の育成
- 施策7 人格形成の基礎を培う幼児教育の充実
- 施策8 豊かな心の育成
- 施策9 生涯をたくましく生きるための健康・体力づくりの推進
- 施策10 学びを将来へとつなぐ体系的・実践的なキャリア教育の推進

基本目標 3

地域全体で子供を育てる体制と全ての人が活躍できる環境づくり

- 施策11 家庭教育への支援と家庭・地域との連携・協働の推進
- 施策12 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進
- 施策13 文化芸術、スポーツの推進



令和8年度 東上総教育事務所学校教育指導の重点

指導室 重点目標 「生きる力」の育成

子供と教師の自律的な学びの支援

学校経営・教育課程

- 1 組織マネジメントを生かした効率的で機動力がある組織（チームとしての学校）づくりを進め、学校評価を活用した経営の改善を図る。
- 2 学校教育目標に基づき「社会に開かれた教育課程」の実現に向けたカリキュラム・マネジメントを確立する。

学校（園）間の連携

- 1 各学校（園）間の子供の関わりを深め、学びをつなげる教育活動を積極的に行う。
- 2 学校（園）間の接続又は連携・協働する体制や組織づくりを推進する。

研究と修養

- 1 教職員一人一人の資質・能力や人間性の向上を目指し、研究と修養の充実を図る。
- 2 「研究推進委員会」や「学力向上推進委員会」等の校内体制の充実と活性化を図る。

情報化推進

- 1 児童生徒の学び意欲と学習成果の向上を図る。
- 2 児童生徒の個性と能力を最大限に引き出す指導力の向上を図る。
- 3 児童生徒と向き合う時間の確保を図る。

学力向上

- 1 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業実践に取り組む。
- 2 読書活動の推進及び学校図書館の利活用を通じた授業の充実を図る。

道徳教育・人権教育

- 1 校長の方針の下、道徳教育推進教師を中心に、各学校の特色を生かした道徳教育を推進する。
- 2 「道徳科」の授業の充実を図り、授業公開や地域人材の積極的な活用等、家庭・地域と連携した道徳教育を推進する。
- 3 児童生徒が「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること」ができるよう、教育活動全体を通じて組織的・計画的に人権教育を推進する。

グローバル社会に対応した教育

- 1 グローバル社会において必要となる資質・能力を身に付け、国際社会の担い手となるための教育を推進する。
- 2 外国語教育の充実を通して、他者を尊重し、協働するためにコミュニケーションを図る資質・能力を育成する。

生徒指導

- 1 SOSの出し方教育と教育相談体制の充実を図る。
- 2 不登校児童生徒及び保護者への支援の充実を図る。
- 3 いじめ、暴力行為の未然防止に努め、的確且つ迅速な初期対応を図る。
- 4 教科の指導と生徒指導を一体化させた授業づくりの推進に努める。
- 5 児童生徒を取り巻く課題の解決に向けた学校、家庭、関係機関、地域の連携強化に努める。

特別支援教育

- 1 全ての教職員の特別支援教育に関する理解の深化と指導力の向上を図る。
- 2 障害のある児童生徒の学びと切れ目ない支援体制構築に向けた取組を推進する。
- 3 早期からの相談支援及び保護者・関係機関と連携した総合的な支援体制の充実を図る。
- 4 ICTの活用による教育の質の向上を図る。

体育・健康・安全教育

- 1 生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現に向けて、「運動が楽しい」と実感できる授業展開・運動機会を推進する。
- 2 自らの健康の保持増進に向け主体的に行動できるよう学校保健の充実を図る。
- 3 食に関する指導の充実を図る。
- 4 安全教育の充実と安全管理の徹底を図る。

キャリア教育

- 1 自己の将来を思い描くことができるよう体系的な指導の工夫改善を図る。
- 2 特別活動を要としてつつ、学校教育全体を通じて行う実践的なキャリア教育を推進する。

社会教育

- 1 家庭・地域と連携・協働する学校づくりを推進する。
- 2 親の学びと家庭教育支援の充実を図る。



各教科等の重点

学力向上は、授業改善から！

令和8年度

東上総学力向上アクティブプラン

1 学習指導要領解説の読み解き

- 各教科等で育成を目指す資質・能力を明確に捉える
- 各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を捉える

各教科等の指導において、育成を目指す資質・能力の把握は大前提です。また、各教科等の学びの深まりの鍵となるのが「見方・考え方」です。学習指導要領解説には、各学年、領域等において育成を目指す資質・能力や全体を網羅した「見方・考え方」が記述されています。それらを読み解き、単元や題材等を通じて育成したい資質・能力や働かせたい「見方・考え方」へと具体化し、授業に臨みましょう。

2 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業実践

- 「『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム」を活用する
- ☆「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実
- ☆ICTの効果的な活用
- 指導と評価の一体化に努める

「見いだす」「自分で取り組む」等の各段階が、授業者主導ではなく、児童生徒が思考を働かせながら活動できるものであることが大切です。育成を目指す資質・能力を基に目標を定めた上で、興味・関心を高め、「見方・考え方」を働かせる活動を設けるなど、思考の流れを踏まえた授業をつくりましょう。ICTの効果的な活用、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の効果的な位置付けを考えるとともに、授業では、児童生徒の活動の姿からの的確に評価し、適切な指導・支援を講じましょう。

3 全国学力・学習状況調査の活用

- 教員全員で問題を解き、分析して出題の意図（資質・能力）を把握する
- 結果の分析から自校の課題を見だし、すべての教科につながる授業改善の視点を明らかにする

全国学力・学習状況調査では、学習指導上特に重視される点や身に付けるべき力を具体的に示すメッセージとなる問題が出題されます。実際に問題を解いてそのメッセージを読み取り、授業改善の視点を明らかにしましょう。また、授業実践後はPDCAサイクルを働かせ、更なる授業改善と学力向上を図りましょう。

国語

- 言葉で正確に理解し、適切に表現する資質・能力を育成することができるよう、児童生徒の実態に即した言語活動を充実させ、授業の工夫改善を図る。
- 学校図書館の計画的な利活用と主体的な読書活動の充実を図る。

社会

- ICTの効果的な活用等を含む単元を見通した指導と評価の計画の工夫改善をする。
- 児童生徒の実態把握と問題（課題）解決的な学習の充実による思考力、判断力、表現力等の育成を図る。

算数、数学

- 学習内容の系統を見通し、それを貫く数理的な本質を意識した授業づくりに取り組む。
- 児童生徒が数理的、本質的な考えに気付くことができる指導の工夫を図る。

理科

- 見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、問題解決の力や科学的に探究する力を養う。
- 安全管理・安全指導の徹底を図る。

生活

- 表現活動を工夫し、体験活動と表現活動とが豊かに行き来する相互作用を重視し、気付きの質を高める指導の工夫をする。
- より信頼性の高い評価となるよう、「量的な面」だけでなく、「質的な面」からも、一人一人の児童の変容や成長の様子を見取る工夫をする。

音楽

- 目指す資質・能力の育成へとつながる、より質の高い協働や振り返りの充実を図るとともに、題材全体を見通した学習の過程や成果を評価する。
- 教科等横断的な視点や系統性を踏まえた指導計画の作成と活用の推進を図る。

図画工作・美術

- 造形的な視点で感性や想像力を働かせ、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだす造形活動を展開する。
- 発達段階に応じて、個のめあてを明確にし、自他の活動を振り返る評価の場を設け、認め合い、伸ばし合う工夫をする。

家庭、技術・家庭

- 系統性や教科等横断的な視点を意識し、題材を通して育成する資質・能力を明確にして授業を行う。
- 児童生徒の充実した学びのために、安全管理（含：食物アレルギー）、安全指導を徹底し、実習室の計画的な環境整備の推進及び研修の質的向上を図る。

体育、保健体育

- 実態に合わせて運動量を確保し、運動の楽しさや喜びを味わえるように指導と評価の計画の工夫改善を図る。
- 自己選択・自己決定する場面を設け、個や集団で振り返る機会の確保を図る。
- 体力・技能の程度や性別の違い等にかかわらず、仲間とともに学ぶ体験や運動の多様な楽しみ方（する・みる・ささえる・知る）の共有を図る。

外国語活動、外国語

- 児童生徒が主体的に自分の思いや考えを伝え合う言語活動や、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じた言語活動、ICT（デジタル教科書等）の活用等、指導の改善を図る。
- 単元末や学期末などの最後のゴールと育てたい児童生徒の姿から逆算した指導と評価の計画の作成（バックワード・デザイン）による指導の充実を図る。

総合的な学習の時間

- 探究のプロセスの充実に向けた授業改善の推進（探究課題の工夫とICT活用の効果的な位置付け）を図る。
- 児童生徒が主体的に取り組もうとする意欲を高め、自ら課題意識をもてるような探究課題を設定し、特に導入場面の工夫改善を図る。

道徳

- 各学校の特色や教科等横断的な視点を踏まえた、実効性のある道徳教育の諸計画を作成し活用する。
- 児童生徒が主体となった「考え、議論する道徳」を目指し、指導の工夫改善を図る。

特別活動

- 発達段階に応じて、望ましい合意形成や意思決定につながる話し合い活動の充実を図る。
- 自主的、実践的な活動につながる事前指導、事後指導と評価の方法を工夫する。